

1 はじめに

1年間で一番長かった2学期が今日で終了します。

2学期を振り返ると、その始めには、台風14号による大きな浸水被害がありました。皆さんの通学路の中には大変危険な状態になったところもあり、角田・笠下方面では、しばらくの間、臨時バスを運行してもらいました。また、皆さんのご家庭や親戚の方々のお家でも多くの被害があったということを伺い、大変心を痛めました。

そんな中、強く心に残ったのは、この台風被害に際して、たくさんの中学生や小学生が、自主的なボランティア活動として災害復旧に参加したことでした。

一番長い時間参加した中学生は延べ67時間、2番目の人は62時間でした。これは一日8時間に換算すると実に1週間以上になります。この大切な自分の時間を、災害で気持ちの沈んでいる人のため、また災害で傷ついた北方のために費やしたことになります。本当に貴いことだと思いました。ボランティアに参加した中学生の感想文は、どれも心を打つものばかりでしたが、そのうちの一人の感想を紹介します。

終わりの見えない作業は大変すぎたけれど、私よりも先に、早く作業をしていた方や婦人会、北方町以外からのボランティアをしてくださる方々のありがたみを強く感じました。初めての復旧作業は本当にきつかったけれど、「ありがとう」と言ってもらえたこと、少しずつ綺麗になっていく街の姿に携われたこと、やりがいでしかなかったです。誰かの手助けになることができて、心の底から良かったと思っています。また、ボランティアをする機会があったら率先して参加したいです。

2学期には、台風による臨時休業に加えてコロナ禍による学級閉鎖もありました。振り返ってみると、当初予定していた77日間すべてが順調であったわけではありませんでした。それでも、皆さんの命に関わるような大きな事故や事件の報告がなかったことにほっとしています。みんなで終業の日を迎えられることを、まずは喜びたいと思います。

2 2学期を振り返って（小学生）

さて、そうした2学期でしたが、楽しい行事もたくさんありました。

小学校1・2年生では、マリちゃん農園での楽しいミカン狩り、また、学校園を使ったチューリップの球根植えや芋掘り体験を行いました。更に、来年1年生になる保育園児童との交流会や町探検、つい最近は、地域の方々に昔の遊び方を教えてもらう楽しい体験もしました。

3・4年生では、秋の遠足でニジマスを釣ったり河原の石を使ったアート作品を作ったりしました。また、イオンショッピングセンターの見学やバスの乗り方教室など、普段はできない貴重な体験もしました。

5年生は、田植えから稲刈り、そして餅づくりといったお米に関する一連の学習を行いました。また、学級全員で、むかばき登山と宿泊学習にチャレンジしました。誰もが山頂から見える自然の絶景に、大きく感動したことでしょう。

6年生は、新川水流橋の見学に招待され、クレーンの上から橋を眺めたりバーチャル

体験をしたり、今年ならではの体験をしました。またスポーツフェスタにも参加しました。

けれども、6年生と中学2年生にとって、なんといっても最大の行事は、修学旅行だったことと思います。わずか数日の旅の中にも、たくさんの学びがあり、友だちとの思い出があり、きっとその経験は、皆さんの心の中に一生を通して残ることでしょう。

3 2学期を振り返って（中学生）

中学生でも、この2学期、中体連の大会や生徒会の役員選挙と役員の退任式・任命式、また清流祭など時間をかけて作り上げる大きな行事がありました。

それらが成功するかどうかは、自分たちの中に「中心となる自覚」があるかどうかにかかっていると思います。部活動でも清流祭でも、その中心にいて力を発揮するべき者は先生たちではなく自分たちだからです。

清流祭の中で聞かせてもらった全体合唱「花は咲く」や3年生のオリジナル劇「私、実はね・・・」のテーマ性には、大変心を動かされました。それは、皆さんの中にあった「中心となる自覚」が、表に現れ観客の心に届いたからこそのことだと思います。

2学期は「継承」の学期。学校の中心は、生徒会選挙を経て3年生から2年生・1年生にしっかりと引き継がれました。

引き継ぎを終えた3年生の次のテーマは、中学校生活最後で最大のテーマ「進路の実現」です。三者面談を終え、一人一人の心も目標も定まったことでしょう。年が明ければ、いよいよ入試の季節を迎えます。中学生生活のゴールも目前です。感じるプレッシャーも大きくなることでしょう。しかし、その苦しい局面に耐えてこそその締め括りです。中学3年間の集大成。どうぞ、力を尽くしてラストスパートを駆け抜けてください。

4 終わりに

いよいよ明日から17日間の冬休みに入ります。明日はクリスマスイブ。そして、もういくつ寝るとお正月もやってきます。

2学期を振り返ると、実は課題もありました。それは「ことば」の問題です。

小学校でも中学校でも、この2学期、ふわふわ言葉の学習や、人権学習、また「伝え方・聞き方名人になろう」というテーマの学級活動などを行っていました。けれども、実際には、強く相手を責める言葉で傷ついた人がいたり、心ない言葉が原因でけんかになったり、また相手を否定する言葉で人間関係が悪くなったりする場面もたくさんありました。

そこで、皆さんに1つの提案をしたいと思います。

それは、この冬休み、できるだけ沢山の人に、「ありがとう」という言葉を使おう、という提案です。年末年始には、友だちや家族を初め親戚や隣近所の方々まで、たくさんの人に会う機会が増えます。

「ありがとうは幸せの始まり」です。是非、自分から、相手を、そしてまわりの人を幸せにする言葉をたくさんプレゼントしてみてください。「ありがとう」と言われて、相手に悪い感情を持つ人はいません。皆さんの発した「ありがとう」の言葉は、きっと皆さん自信がまわりから大切にされるという幸せとなって戻ってくることでしょう。

年末・年始が、皆さん、そして皆さんのご家族にとって、そういう幸せに満ちた時間となりますよう心から祈っています。